

平成 29 年度
美術実技講座「楽しいおはな、悲しいおはな。心のお花の標本作り」
事業報告

日 時：平成 30 年 3 月 17 日（土）①午前 10 時～12 時 ②午後 2 時～4 時
3 月 18 日（日）①午前 10 時～12 時 ②午後 2 時～4 時

対 象：①親子（小学生以上） ②一般（中学生以上）

参加人数：

【17 日】

午前 16 名（1 年生 1 名、2 年生 3 名、4 年生 1 名、5 年生 1 名、6 年生 3 名、保護者 7 名）
午後 9 名

【18 日】

午前 17 名（年長 1 名、1 年生 3 名、2 年生 3 名、4 年生 1 名、5 年生 1 名、保護者 8 名）
午後 13 名

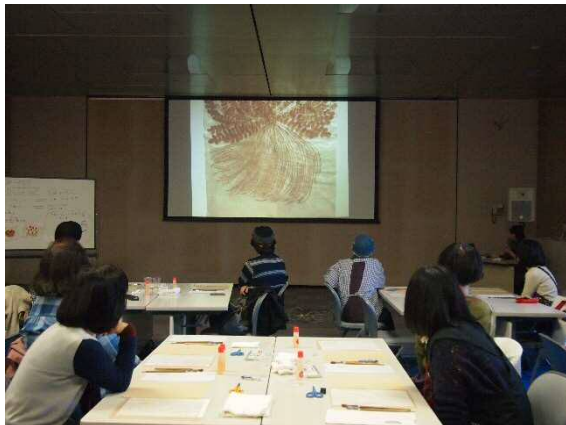
参加費：無料

職 員：阿部、大村、長岡

講師：今村文（現代アーティスト）

1982 年 愛知県生まれ。2008 年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科絵画専攻油画コース修了。現在、愛知県在住。主な個展に 2015 年『見えない庭』（山鬼文庫/金沢）、2014 年『絵という肉体を持った幻』（エビスアートラボ/名古屋）など。主な展示に 2017 年 plants planet（はじまりの美術館/福島）、2016 年 あいちトリエンナーレ 2016(長者町会場 八木兵 6 号館、喫茶クラウン/名古屋)、2015 芸術植物園(愛知県立美術館/名古屋)など。

「美術実技講座」は、実技を交え、実際に手を動かしながら素材の使い方や表現を学び、アーティストの活動や発想に直接触れる体験を行うことを目的とした教育普及プログラムです。今年度は現代アーティストの今村文さんを講師にお招きし、水彩を使って花を描き、切り取って標本のように貼り付け、作品を作るワークショップを行いました。



はじめに、今村さんの自己紹介と、どんな作品を作っているのかを紹介してもらいました。全国の美術館やあいちトリエンナーレなど、様々な場所で展示されている今村さんの作品。もう既に見たことがある方も多かったようです。

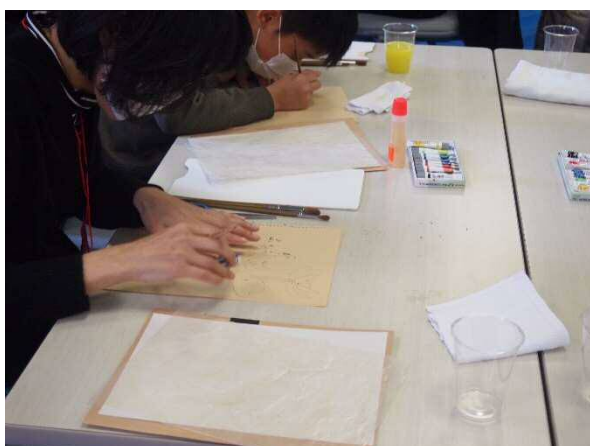
今日は、単にお花を描くのではなく、「気持ち・感情」と組み合わせた架空のお花を考えます。



制作の手順をスライドで確認したあと、絵の具の塗り方や混色の仕方などをレクチャーしてもらいました。絵の具をそのまま塗る方法だけでなく、紙を少し塗らしてその上に色を置いたり、紙の上でグラデーションを作る方法なども教えてもらいました。

続いて、切り取った花の絵の貼り付け方もレクチャー。普通にのりを裏に貼るやり方よりも、細かいところがキレイ

に貼り付けられます。



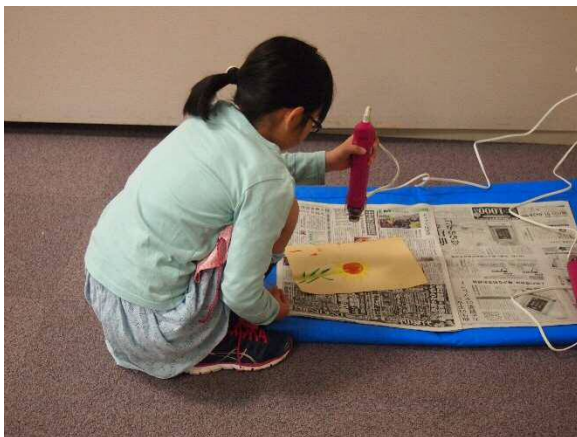
まずは鉛筆で下書きをします。

実際のお花に似せて写実的に描くよりも、今日は「想像上のお花」を描くことを大事にしましょう、というお話もありました。

スマホで調べたり、ヒントとして置いてある図鑑を見たりする人もいましたが、現実にはないユニークな形のお花がどんどん出来上がっていきます。



下書きが終わったら水彩絵の具を使って色を塗ります。今回、紙はスクラップブック用の茶色い用紙を使っています。ここに絵の具で描くことで、自然と時間がたった押し花のような雰囲気をつくることができるそうです。



出来上がったら、まだ紙が濡れている人はドライヤーで乾かします。乾かすうちに、面白いにじみの表現になっていくお花も。



花を切り取って、グラシン紙という薄く透ける紙に貼ります。重ねて貼ったり、並べて貼ったりすることでどんどん雰囲気が変わっていきます。



「カラフルでうれしいチューリップ」や「げんきなコスモス」、「はずかしいスズラン」など、気持ちとお花を組み合わせたタイトルをつけて完成です。

現在活躍中の作家さんの制作手法をご本人から教えてもらえる貴重な機会、どの参加者も楽しそうに活動していました。